

ちゅうごくでんりょくかぶしきかいしゃすみかわはつでんしょほんかん 中国電力株式会社澄川発電所本館

1. 建物の概要

所在地	益田市匹見町澄川
所有者	中国電力株式会社
建築年代	昭和 18 (1943) 年
登録年	平成 27 (2015) 年
構造等	鉄筋コンクリート造平屋一部 2 階 及び地下 2 階建
建築面積	346 m ²



【澄川発電所本館】

2. 沿革

高津川水系匹見川の 3 つの発電所の中間に位置する現役の水力発電所。
戦時中の昭和 18 (1943) 年建築で、戦前のモダニズム建築の特徴を有している。
匹見川流域では中国山地から流れ込む豊富な水量と急峻な地形を背景に 3 つの水力発電所が稼働している。

3. 建物の特徴

澄川発電所は鉄筋コンクリート造モルタル塗りで、南側に高い内部空間をもつ平屋一部地下二階建の発電機室が、北側に二階建の事務室があり雁行に配置されている。

外観は戦前期のモダニズム建築に共通するデザインを有しており、当時の最先端の建築意匠が中国地方の山間部にいち早く取り入れられた例として貴重である。

モダニズム建築初期の特徴を示す点として、外観においては、開口部が水平連続窓によらずポツポツと配され、全体的に一面に白い壁として作り上げられている点やパラペット*を立ち上げず、小ぶりの庇を伸ばしている点などがあげられる。

内部構造においては、2 段構成を採った柱・梁の架構に戦前期の建築らしさが表れている。
*陸屋根など屋上に設けられる低い立ち上がり壁、胸壁



【控えめな外観の中で存在感を見せるニッチ】



【2 段構成の柱・梁の架構】